骨粗鬆症のお薬と歯科治療

社会医療法人全仁会　倉敷平成病院　歯科
大野　麻里奈

みなさん、現在服用中のお薬はありますか?中には、たくさんのお薬を飲んでいる方もいらっしゃるのではないでしょうか。

今回は、意外と知られていない骨粗鬆症のお薬と歯科治療との関係についてお話しします。

【骨粗鬆症のお薬と顎骨壊死】

骨粗鬆症やがんの骨転移に対して広く用いられているビスフォスフォネート系製剤（以下ＢＰ製剤）は、骨が溶けてしまうのを抑えるお薬（骨吸収抑制薬）です。

しかし、ＢＰ製剤使用経験のある方が、抜歯などの顎の骨に刺激が加わる治療を受けると顎骨壊死（がっこつえし）が起こることがあります。近年では骨粗鬆症やがんの骨転移に対する新たな治療薬として、デノスマブというヒト型ＩｇＧ２モノクローナル抗体製剤（骨吸収抑制薬）が登場し、ＢＰ製剤と同様に顎骨壊死が起こると報告されています。

【骨吸収抑制薬にはどんなものがある?】

骨吸収抑制薬には以下のようなものがあります。

◆ＢＰ製剤
ゾレドロン酸（ゾメタ®）
アレンドロネート（テイロック®、フォサマック®、ボナロン®）
リセドロネート（アクトネル®、ベネット®）
パミドロネート（アレディア®）
インカドロネート（ビスフォナール®）
ミノドロン酸（ボノテオ®、リカルボン®）
イバンドロネート（ボンビバ®）
エチドロネート（ダイドロネル®）
◆デノスマブ（ランマーク®、プラリア®）

【顎骨壊死とは?】

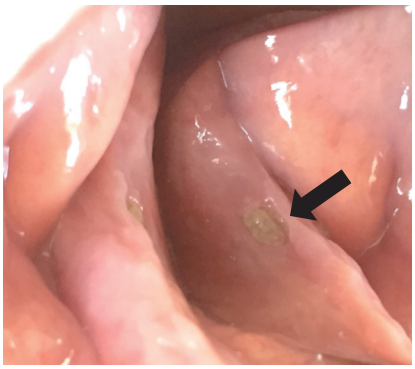
顎骨壊死とは、顎の骨の細胞が局所的に死滅し、骨が腐った状態になることです。顎骨が壊死すると、痛い、歯ぐきが腫れる、膿が出る、顎骨が露出する、下唇がしびれる、といった症状が現れます。顎骨壊死は治りにくく、場合によっては手術が必要になることもあります。

【顎骨壊死はなぜ起こる?】

顎骨壊死が起こるメカニズムはまだわかっていません。

骨壊死は顎骨だけに発生します。それは、顎骨には他の骨には見られない特徴があるからと考えられています。

①口の中の感染源が歯と歯ぐきのすき間から顎骨に到達しやすいこと
②口の中には８００種類以上、10^{11}～10^{12}個／cm^3と多数の細菌が存在すること
③むし歯や歯周病を介して顎骨に炎症が波及しやすいこと
④抜歯などの侵襲的な歯科治療により、顎骨が口腔内に露出し感染を受けやすいこと
⑤顎骨を覆う口腔粘膜は薄いため、傷がつきやすく感染が直下の顎骨に波及しやすいこと
（顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー２０１６より　一部改変）



実際の患者さんのお口の中です。
顎骨壊死により骨が露出しています。

わかりやすく言うと骨吸収抑制薬を服用されている方は、むし歯、歯周病、合わない入れ歯による傷、顎骨への侵襲的歯科治療（抜歯など）、口腔内の不衛生などから顎骨に感染が起こり、顎骨壊死が起こりやすいと考えられています。

【骨吸収抑制薬と歯科治療】

骨吸収抑制薬は骨折予防、がんの骨転移に対して有益な効果をもたらします。骨吸収抑制薬開始予定の方も、すでに開始されている方も、以下のポイントを守って、健康なお口を保ちましょう。

・骨吸収抑制薬を服用中の方は、歯科治療を受けられる際に、お薬手帳を持参するなどして必ずお知らせください。
・骨吸収抑制薬を服用する予定の方は、一度歯科で検診を受けましょう。
・定期検診で治療が必要な歯が見つかった場合は早めに治療を受けましょう。
・自己判断で骨吸収抑制薬を中止せず、まずは主治医の先生に相談してください。
・感染予防が非常に重要です。毎食後のブラッシングやうがいにより口腔内をきれいに保ちましょう。
・入れ歯が合わない場合には、そのままにせず早めに歯科を受診しましょう。